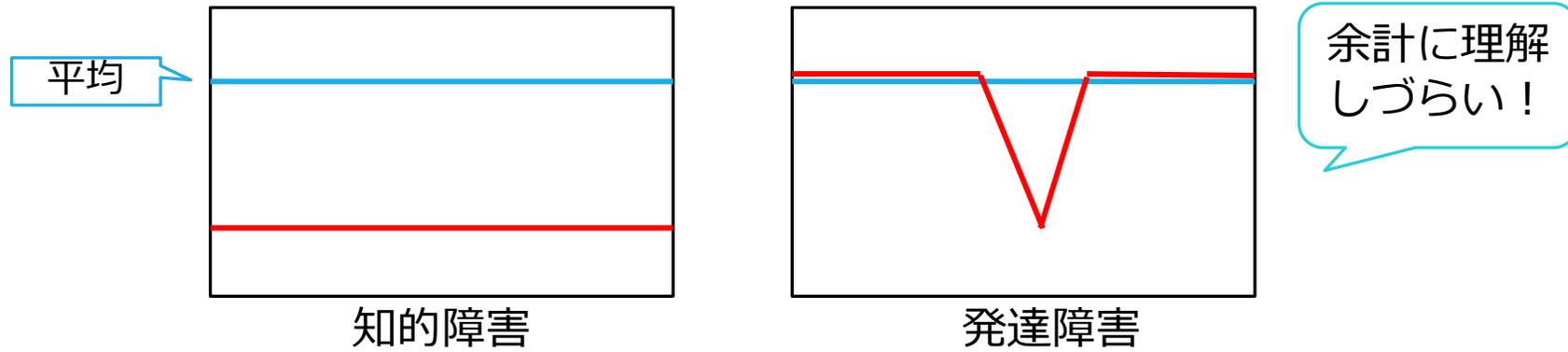


発達障害を併せ有する児童への支援

東京学芸大学
大鹿 綾

発達障害ってなに？

明らかな知的な遅れはないにも関わらず、特定の領域に極端な苦手さがある



≠ 精神障害（うつ、統合失調症、依存症など）

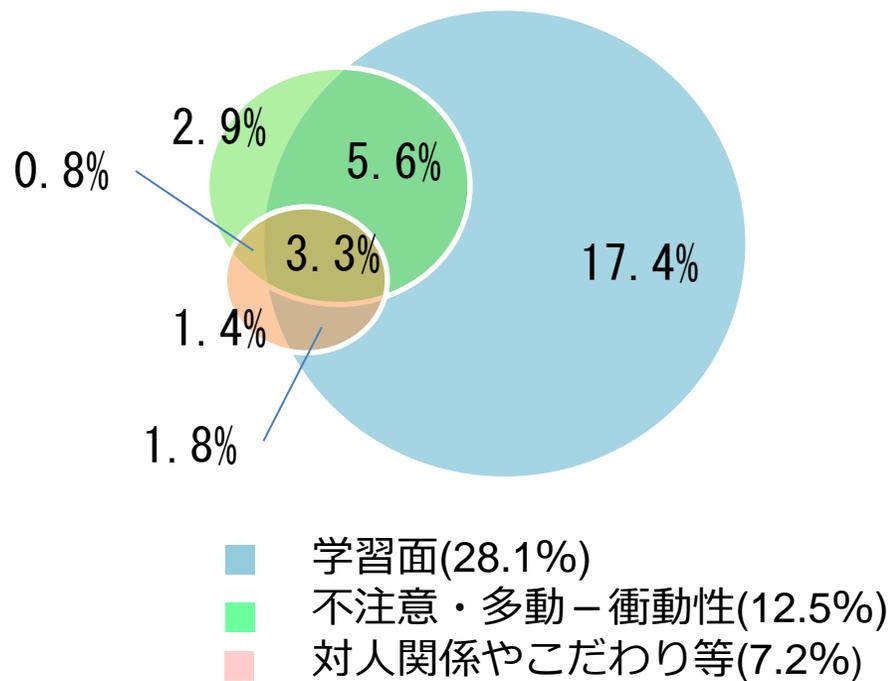
しつけや愛情、環境要因、本人のやる気の問題ではない

ただし、適切な対応がされていないと、二次的困難として精神障害を引き起こすことはよくある ←本来は起こしてはだめ！

が、実際の困難度には大きく影響

できるだけ早期から、正しく理解し、適切に対応することが大切

全国ろう学校における調査（2017） 文科省チェックリスト（2012）の活用【小+中学部】



	聴障児（2017）	聴児（小+中） 文科調査（2012）
学習面か行動面で著しい困難を示す	33.1%	6.5% (5.1倍)
「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」に著しい困難を示す	28.1%	5.7% (4.9倍)
「不注意」又は「多動性－衝動性」に著しい困難を示す	12.5%	3.5% (3.6倍)
「対人関係やこだわり等」に著しい困難を示す	7.2%	1.3% (5.5倍)
教員の印象	30.8%	—

- ・発達障害様の困難を示す聾学校在籍児の割合は**聴児よりも高率**
- ・医師等の専門家の診断によるものではない。「困っている子」の数としてとらえたい

発達障害のある聴覚障害児と 関わる際にまず！

「聴覚障害児」としての教育、支援を十分に受けられているのか

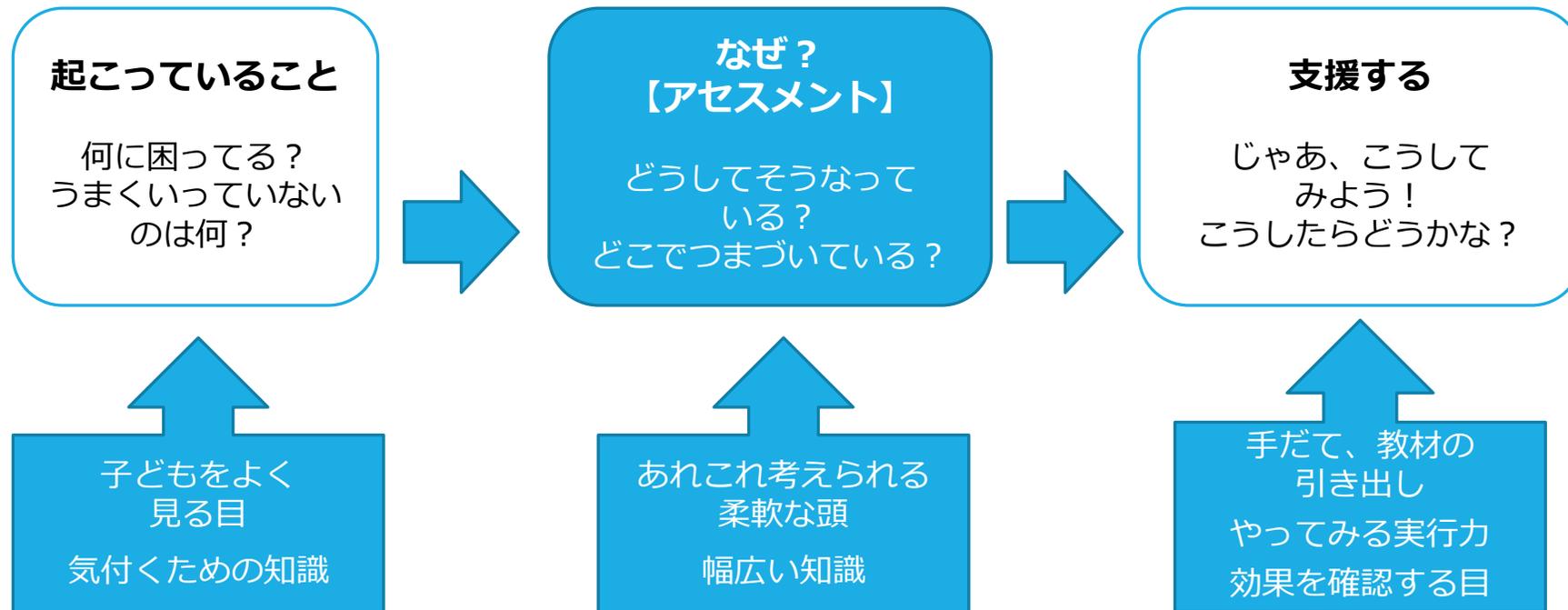
聴覚管理は十分か（HA,CI,フィッティング、拡張デバイス、一側性難聴、軽度難聴）⇒医療や補聴器技能士等との連携 公的サポートなどの情報提供

（その子にとって最も使いやすい）コミュニケーション手段を育てているか

自分自身の手話力、聞かせる・見せる口形の確認

一人一人違うから

同じ診断名を持っていても、実際の状態像は一人一人違う
表面上に見える困難だけでなく、「なぜ」それが起きているのかを探してあげよう！



聴覚障害 + α



1 + 1 = 2 ...ではないかも

でも、100にも1000にもなるわけではなさそう

きこえる発達障害児への支援と何が、どちらがうか

(聴覚障害児教育の基本を押さえたうえで) ADHD、ASDへの支援は比較的きこえる子への支援が活用しやすい!

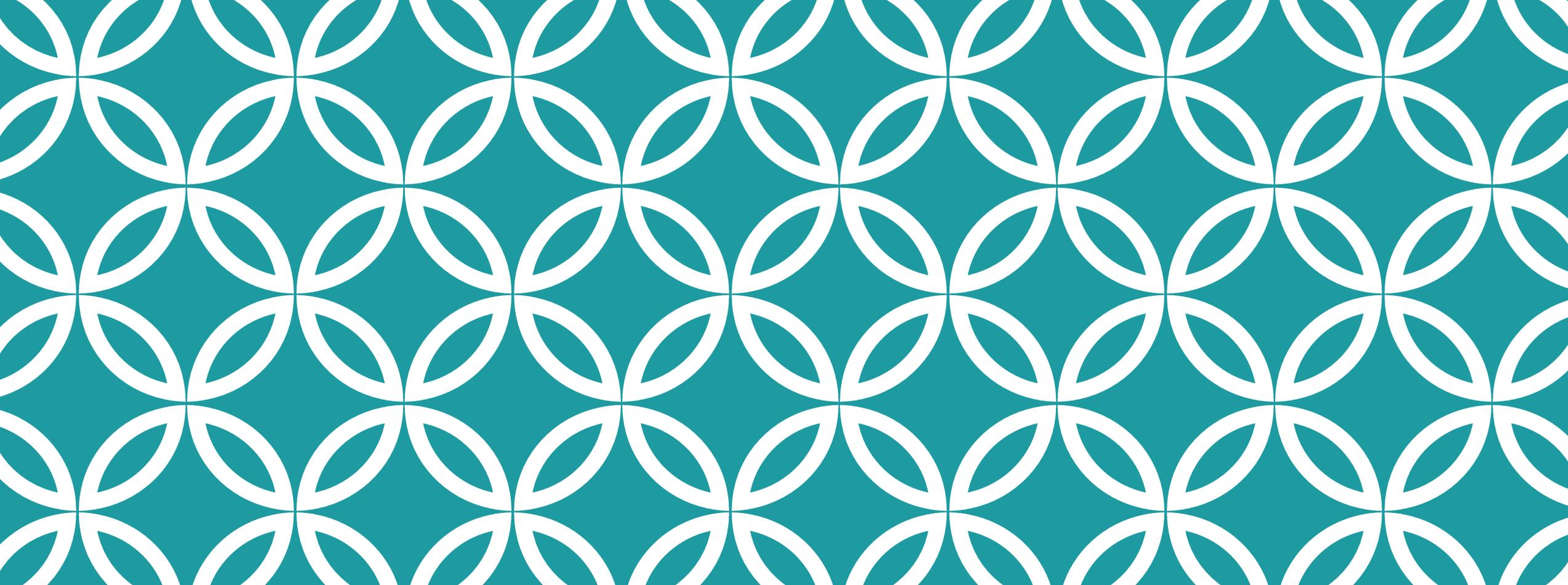
ADHD、ASDは医学的診断も比較的つきやすい →必要があれば服薬も

難しいのはやっぱりLD! 特に言語面 (大人だと?)

目標設定の「妥当性」: 車いすの人に「階段を登れるようになれ」っていう?

伸ばしていきたい面 うまく付き合っていく面

「大人の望む姿」だけでなく「子どもの発達段階」をしっかりと見ていく



事例紹介

(事例は複数の例を組み合わせる
などしています)





事例 1 : ASD + ADHDのある A 君

コミュニケーション手段は手話 + ジェスチャー

気持ちのコントロールや、言語でのコミュニケーションに苦手さ

人のことは好きな一方、やり取りが一方向的になりがち

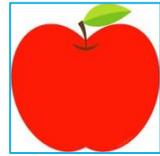
ルールは理解できるが、やや融通が利かなかったり、自分の思いが優先されてしまう面も

- ・ 自分の気持ちを理解し、場面に合わせた対応方法を知る
- ・ 他者との適切な関わり方について、行動パターンを増やす

負けるのがいや！

「もの」とではなく、「ひと」と遊ぶ

→相手を見ないとできない遊びの工夫：おちたおちたゲーム



勝ち負けが**偶発的**な遊び →じゃんけん、さいころ

負けたけどAくんのせいではない、「**仕方がない**」

「負けたけど、たのしかったね」

「仕方がない」をキーワードにして

偶発的な予定の変更は「仕方がない」

ぎちぎちだった「自分ルール」がすこし柔らかくなってきた

①自分の気持ちを理解し、 場面に合わせた対応方法 を知る

相手の表情や状況から、相手が「怒っているか、笑っているか、泣いているか...」の区別はつく

でも、「どのくらい」の気持ちの**程度**なのかを理解するのは難しかった

程度が分からないので、本人は遊んでいるつもりでも...

自分の気持ちの理解も同様だった

→視覚的に整理 + 行動も確認

SSTをするときにも、その状況や言葉が理解できているかを確認して 思わぬところでつまづいていることも...



(ことばと発達の学習室 M : エスコアール社より)



事例 2 : ASD傾向のあるBくん

コミュニケーション手段は聴覚活用+手話

学校の勉強はとっても得意！

ことばは達者なんだけれど、言い方がきつかったり、状況にそぐわなかったりしてしまう

ストレスを貯めがちで、家では暴言を吐いて暴れてしまうことも

最近は家での様子に保護者もへとへと...

- ・自分の言いたいことの上手な伝え方を知る
- ・周囲の環境を調整していく

①自分の言いたいことの上手な伝え方を知る

初回相談の時、「俺の悪口を言っているんだろ！」

二人でゆっくり話をすると「自分でも、どうしていいかわかんないんだ...」

高い語彙力 ⇔ ややずれた理解をしていることも

気持ちを伝える**フレーズ**（「そうやって言われると、ムカってしちゃうんだ」）や、**クッション言葉**（「話変わるんだけどさ」「ちょっと待ってほしい」）→ロールプレイで練習

自分の話しているときの様子を**動画**に撮って一緒に確認（自分を客観的に見るのは難しい！） →「えー、これじゃ自分でもわかんないや」

相手にうまく伝えるためのコツ

「分かった」≠「できる」 繰り返し、思い出するためのキー



② 周囲の環境を調整していく

家庭でゲームがやめられない

保護者：「ルールを決めているのに、守れない。ついきつく叱ってしまう」

Bくん：「急にやめろって言われても、無理！怒られると余計むかつく！」

→どんな風に声を掛けられるなら、頑張れるのか相談

Bくん自身が保護者に「あと5分だよ、って優しく言ってほしい」

はじめ保護者は...

→「声のかけ方を変えたら、こちらの気持ちも楽になったし、守れることが増えてきました。まだ100%ではないけど...」

学校との連携

学校で、言われるといやなフレーズがあった
担任の先生との連携

先生：「Bくんはこういうことを言われると、すごくいやなんだって」

→上手な付き合い方の見本となる

Bくんのいいところをみんなの前でほめる

友達のいいところをみつけられたことをほめる

落ち着いてから話をする →落ち着くまでの時間が短くなってきた

友達もBくんとの付き合い方がうまくなり、お互いに穏やかに

人生は続いていく



「こども」だったAくんも、Bくんも「おとな」になっていく
就労に際して、自分のことをうまく伝えられるか

セルフアドボカシー : 合理的配慮を自ら求め、調整する力
うまく付き合っていく力、周囲にサポートしてもらう力

トラブルがなくなったわけではないけれど、それなりに頑張っている

ひとりひとりにとっての豊かな人生を送る力を付けていけるよう、応援して
いきたい！（余暇の充実は今後の課題...）